

卵肉兼用種による新しい越前地鶏作出のための実証試験 (平成26～28年度)

●現状

- 1 再び、地鶏に対するニーズが高まってきている。
- 2 県内の食肉処理業者の一部にも、地鶏の復興を望む要望がある。
しかし、価格が安く歯ごたえのある地鶏を望んでいる。(平成25年10月聞き取り)
- 3 福井県には、50年以上をかけて改良された産卵率の高い卵肉兼用種が存在(ウエミチレッド3号)


●旧越前地鶏の問題点

- 1 肉質は、旨みはあったが、肥育期間が短い
ため歯ごたえのある鶏肉を好む県内消費者の嗜好に合わない。
- 2 生産・流通経費の増大により卸価格が高くなり、農家の収益性も悪かった。
 - ・生産費:2,000円/羽(110日)
 - ・販売価格:2,200円/羽
 - ・収益:200円/羽

●課題

- 1 収益性の高い地鶏の開発
卵肉兼用種を用いることで、卵販売による収益性改善
- 2 歯ごたえのあるおいしい越前地鶏の開発
飼育期間を延長することで、歯ごたえのあるおいしい鶏肉の生産
- 3 飼料米を給与した飼料費低減の実証

●試験内容

- 1 地鶏交配試験
 - ・ウエミチレッド×岡崎おうはんの交配鶏
 - ・ウエミチレッド×名古屋種の交配鶏孵化率、育成率の比較
- 2 卵肉兼用種4種による長期飼育試験
 - ・ウエミチレッド
 - ・岡崎おうはん
 - ・ウエミチレッド×岡崎おうはん
 - ・ウエミチレッド×名古屋種
 - ① 産卵率の比較検討
 - ② 肉質の比較検討
(300、400、500日飼育)
 - ③ 飼料用米給与による飼料費低減の実証
- 3 長期間飼養による収益性の検討
・最適飼養管理方法の確立

●調査項目

- 1 肉質調査
産肉成績(と体重、部位別重量、歩留)
肉質検査(剪断力価、水分含量、加熱損失、保水力、脂肪酸組成)
官能検査(食味検査)
- 2 卵質調査
産卵成績(産卵率、卵重、飼料要求率)
卵質検査(卵殻強度、卵黄色、HU)
- 3 飼養方法の検討
発育調査(体重、育成率)、飼料給与量
経済性(生産費、収益)

●研究目標

- 県民の嗜好に合った地鶏肉の開発
剪断力価(肉の歯ごたえ)
(参考:ブロイラー0.3kg、越前地鶏1.0kg)
1.0 kg ⇒ 1.2 kg
加熱損失(肉のジューシーさ)
18% ⇒ 15%
(参考:ブロイラー18%、越前地鶏18%)
- 収益性の向上
200円/羽
⇒ 2,000円/羽
- 生産費の低減
10%

●期待される効果

- 1 平飼い養鶏農家での地鶏生産拡大
- 2 平飼い養鶏農家の収入増
- 3 新規養鶏農家の誕生
- 4 新地鶏ブランドの確立

